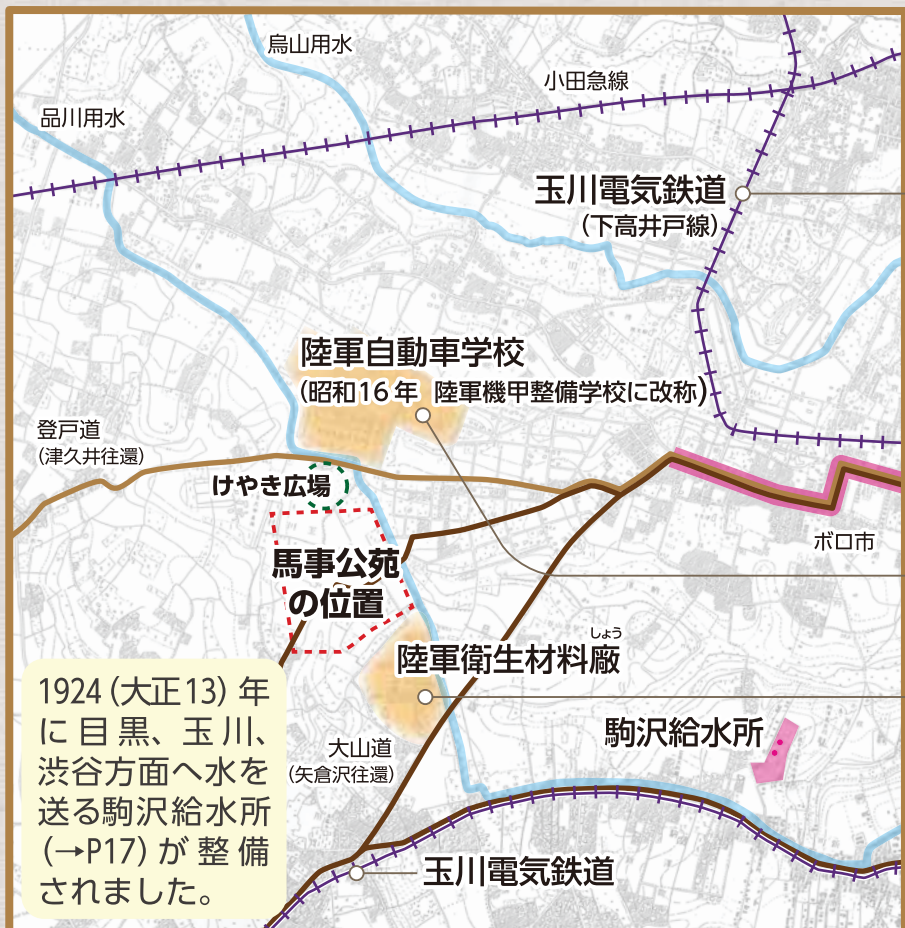


馬事公苑界わいが今の姿になるまで

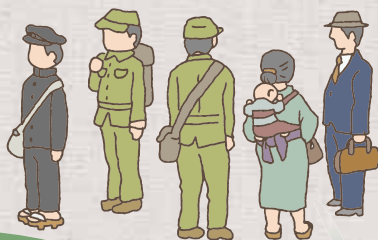
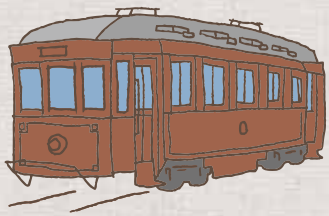
明治～昭和初期の馬事公苑界わい



1929 (昭和4) 年の地図

林と畑だけの場所から、
ちょっとまちっぽい雰囲気
になってきたぞ。

おやっ、玉川通りに
レトロな路面電車が
走っているなあ。



普通の人に混じって兵隊さん
もたくさんいるぞ。何か映画の
撮影なのかな??

●玉川電気鉄道の開通

明治後期になると、郊外から都心へ多摩川の砂利を運び「じゃり電」の愛称で親しまれた玉川電気鉄道（以下、玉電）が開通しました。沿線の開発が進むと、通勤や通学のために旅客輸送にも積極的に利用されました。

やがて、自動車の増加により玉電の路線のほとんどは廃線となり、大山道沿いを走る路線は現在の東急田園都市線へと姿を変えました。三軒茶屋と下高井戸を結ぶ区間は、現在でも東急世田谷線として残り、住民から鉄道ファンまで多くの人に愛されています。



玉川電気鉄道と踏切

●軍施設の移転と初期の宅地開発

玉電の開通と同じ頃、明治政府による体制が安定したことで、皇居周辺の警備体制が緩められ、比較的広い土地があった郊外や古くから政治、軍事、産業的に重要だった大山道周辺にも、多くの軍施設が移転してきました。



陸軍自動車学校内

1912～13（大正元～2）年頃に進められた宅地開発は、世田谷区内でもっとも早い時期に行われたもので、今につながる豊かな住宅地づくりの基礎となりました（→P19）。

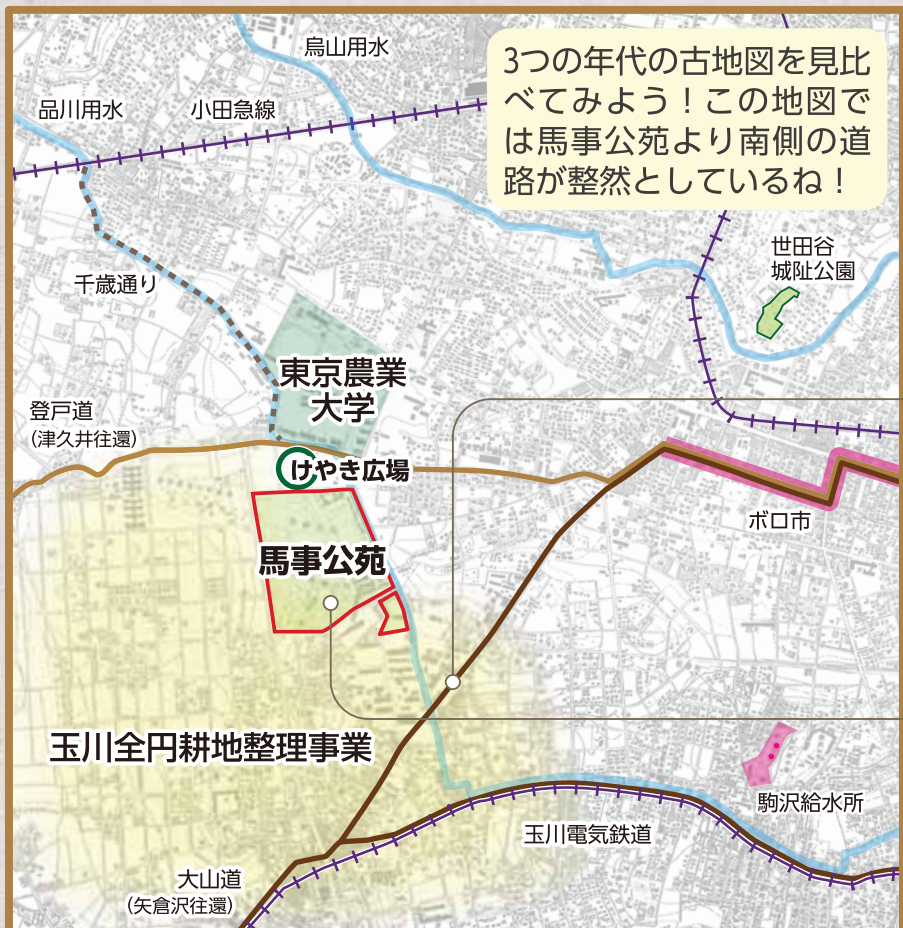
●関東大震災後の人口増加

1923（大正12）年9月1日の関東大震災では、東京・横浜で罹災者総数約340万人、被災世帯数約70万世帯に上りました。都心に近く比較的被害が小さかった世田谷区内には、多くの人々が避難しそのまま定住した人もいました。

このころ小田急小田原線、東急目蒲線、東横線、大井町線、京王線など交通機関の整備が進み、各鉄道会社が沿線開発を進めたことで、関東大震災後に都心から人々が世田谷区へ移り住み、さらに人口が増えていきました。

馬事公苑界わいが今の姿になるまで

昭和初期～高度経済成長期の馬事公苑界わい



1955(昭和30)年の地図

あれ？

馬事公苑の近くに戻ってきたのかな。
でも、ケヤキの木が随分小さいなあ。

ケヤキ並木の道も
石畳じゃなくて
アスファルトだ。
…もしかして



1983(昭和58)年のけやき広場



現在のけやき広場

●住民発の区画整理：玉川全円耕地整理事業

多くの耕地整理事業は民間企業によっておこなわれていましたが、馬事公苑界わいの用賀地域を含む玉川村では、住民自ら耕地整理事業をおこないました。

宅地開発の波を感じた玉川村村長の豊田正治氏は、住宅地としての価値を高めて農地が安く買い叩かれないよう、1925(大正14)年に自ら耕地整理組合を立ち上げ、多くの住民を説得して土地を買い上げ、整理して売り戻しました。広大な玉川村を17工区に分けて進めた土地の整理は、約30年をかけて1954(昭和29)年に遂に完了し、現在の良好な住宅地の基礎となっています。

●馬事公苑の誕生

玉川全円耕地整理事業区域には、後の馬事公苑となる場所も含まれていました。1934(昭和9)年に玉川全円耕地整理組合が土地を帝国競馬協会へ売却し、1940(昭和15)年に日本初の総合的な馬事施設として馬事公苑がオープンしました。

●けやき広場の誕生

馬事公苑正門前のけやき広場は、1986(昭和61)年に現在の広場へと整備されました。植えられているケヤキの木々は、開催されなかった1940(昭和15)年の第12回オリンピック東京大会が計画された時に植樹され、現在ではケヤキのトンネルかと思われるほどに成長し、広場で過ごす人々に木漏れ日を届けています。

●東京農業大学の移転

馬事公苑とともに界わいの中心的な場所に東京農業大学があります。戦火により常盤松(現在の渋谷区)校舎を焼失した大学は、旧陸軍機甲整備学校跡となった現在の場所に移転し再建されました。

